

## がん対策委員会

▶ 2018.3月

●緩和ケア研修会教材作成への協力

厚生労働省の方針として、緩和ケアのがん以外の領域への拡充が決ま緩和ケア研修会の教材について、日本緩和医療学会に教材作成メンバーとして、岡島美朗先生、成田尚先生（臓器不全・移植関連委員会）、押淵英弘先生（臓器不全・移植関連委員会）を推薦し、来年度の教材作成に参画した。  
4月から e-learning での新規教材の学習が開始される予定。

国立がん研究センター中央病院 清水 研

▶ 2018.1月

富山総会会期中 2017.11.18 にがん対策委員会を開催（6名参加）し、以下の内容について話し合われた。

① 緩和ケア研修会教材作成への協力

厚生労働省の方針として、緩和ケアのがん以外の領域への拡充が決まった。日本緩和医療学会より、緩和ケア研修会の教材をがん以外の領域に広げるにあたり、精神症状に関する教材作成協力がGHPにあった。GHP理事会で議論し、がん対策委員会マターとして進め、日本緩和医療学会に教材作成メンバーを何名か推薦することとなった。

11/19にWGが開催され、教材作成メンバーとして岡島美朗先生にご参加いただいた。また、教材の内容としては手始めに心不全の内容が加わることとなったため、臓器不全・移植関連委員会からも以下の2名の先生をご推薦いただいた。

成田 尚 先生  
北海道大学/市立稚内病院

押淵英弘 先生  
東京女子医科大学/JCHO 東京新宿メディカルセンター

② 精神腫瘍学研修会について

総会初日、11/17に実施され、立ち見が出るような状況。好評であった。来年度については、引き続き今回のような実存的苦痛を扱うという案と、統合失調症、発達障害、妊孕性などの案が出た。研修会としては「多くの医療者が直面するが、困難を感じる内容」が馴染むで

あろうこと、妊孕性、統合失調症？については先進的な取り組みについてシンポジウムなどで紹介していただくほうがよいのかもしれない。症例提示をしてくださる方とディスカッサントのご推薦があれば、その内容で進めることとなった。

③ 新委員

大阪国際がんセンター 和田信先生に加わっていただくこととなった。

④ そのほかの議題

GHP に若手の Dr.が参加してもらうための努力について話し合われた。

国立がん研究センター中央病院 清水 研

▶ 2017.11 月

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」の教材改定において、主催学会の緩和医療学会より教材作成への協力依頼があり、11月19日にワーキンググループが実施される。

当学会からは自治医科大学の岡島美朗先生を派遣することとなった。また、心不全に関する内容が追加されることから、臓器不全・移植関連委員会に派遣医師の推薦をお願いしたいと考えている。

国立がん研究センター中央病院 清水 研

▶ 2017.5 月

1.精神腫瘍学研修会の実施について

富山総会にて精神腫瘍学研修会を実施することとなり、精神科医にとって普段扱わない「死」をテーマとしてワークショップを行うこととなった。

2.緩和ケア研修会の対象の拡大について

厚生労働省の方針として、現在「がん診療に携わる医師」を対象として実施している緩和ケア研修会を、がん以外の致死性疾患（循環器疾患等）へ拡大することが検討されている。現在、日本緩和医療学会が主催し、日本サイコオンコロジー学会が共催する形で教育事業を行っているが、日本総合病院精神医学会への協力依頼があることについて共有した。

国立がん研究センター中央病院 清水 研

▶ 2016.7月

緩和ケア研修会の対象の拡大について

厚生労働省の方針として、現在「がん診療に携わる医師」を対象として実施している緩和ケア研修会を、がん以外の致死性疾患（循環器疾患等）へ拡大することが検討されている。現在、日本緩和医療学会が主催し、日本サイコロジ学会が共催する形で教育事業を行っているが、近々日本緩和医療学会から日本総合病院精神医学会への正式な協力依頼がある見通しである。

国立がん研究センター中央病院 清水 研

▶ 2016.2月

理事の交代に伴い、委員長が明智龍男先生から清水に変更になったことが報告された。また、副委員長については上村恵一先生に継続してお引き受けいただけることとなった。

がん対策委員会としては、引き続き総会での精神腫瘍研修会の運営を中心に実地臨床に関する教育に務める方針が確認され、本年度は特にコンサルテーションの場面における医療チームとの関係性についてのスキルに焦点をあてていくこととなった。また、リエゾン・コメディカル委員会などとの連携を深めていく方向性についても確認された。

国立がん研究センター中央病院 清水 研